

## 獣害対策の5箇条

- ① 集落内の収穫残差や不要果樹など「餌場」をなくす
- ② 耕作放棄地や藪などの隠れ場をなくす
- ③ 囲える畑はネットや柵のできる限り囲う
- ④ 人里は怖いと覚えさせるため、獣を見たら必ず追い払う



集落のエサ場としての価値を下げる

- ⑤ 加害している個体を適切に捕獲する



## 一般的な防護柵の種類と特徴



電気柵



ネット柵



ワイヤーメッシュ柵



電気柵+トタン



フェンス+電気柵



### ■それぞれの防護柵の特徴

	機能	設置コスト	耐久性	メンテナンス
電気柵	心理柵	安い ↓ 高い	低い	頻繁 (草刈り等)
ネット柵	物理柵			中程度
金網・ ワイヤーメッシュ柵		多獣種柵 (フェンス+電気柵)	高い	比較的楽 (破損等の点検)

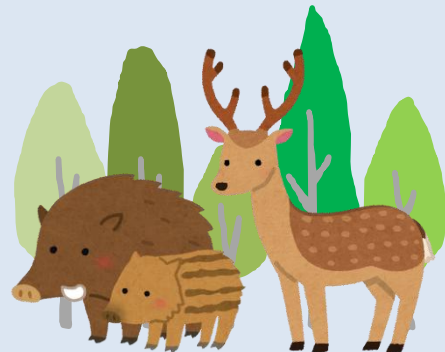
- ☑ 心理柵とは、動物の「心理的な学習効果」を利用して侵入を防ぐ柵のことです。
- ☑ 各防護柵の特徴を理解して獣種や設置場所等の条件に応じた選定を

# 防護柵の基本マニュアル



# 有効な囲い方の基本と設置ポイント

- ✓ 隙間を作らない(つなぎ目や地際)
- ✓ 作物(食べ物)を獣の目に触れさせない
- ✓ 金網や網の目は10cm以内とする
- ✓ 電気柵は獣の足場が土に接するようにする
- ✓ 柵と獣のすみかの間に空間(緩衝帯)を作る
- ✓ 傾斜地への設置は高さ不足にならないよう注意する



## 電気柵の基本

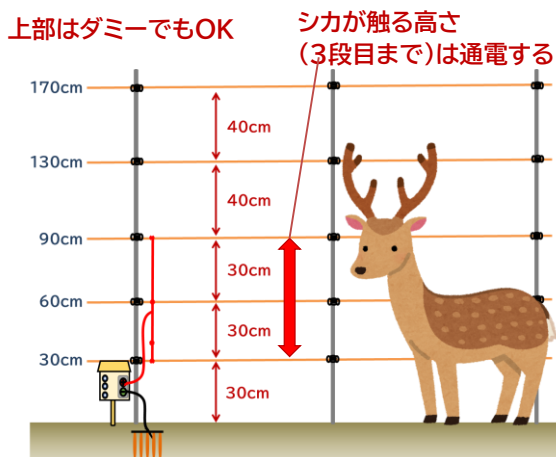
**確実に電気ショックを与えて、  
痛みや驚きを学習させることが重要**

- ✓ 電圧は、必ず定期的にチェックする(数値で表示されるチェッカーが望ましい。5,000V以上)
- ✓ 漏電による電圧低下がないよう、草刈り等を行う。
- ✓ 電気を流さない時期は、電線は外しておく(電気ショックがないことを学習させない)。

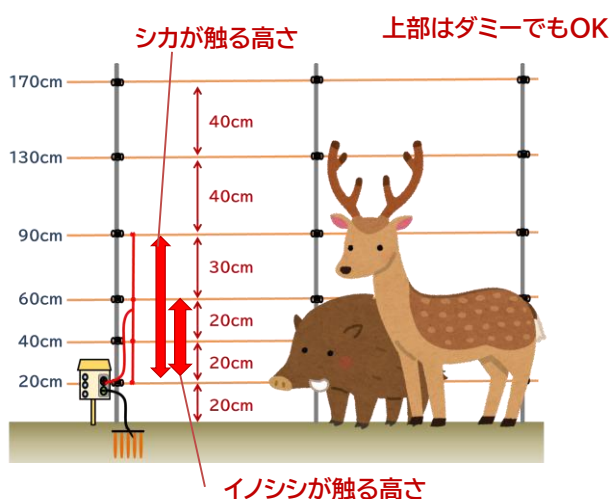
電圧が低い



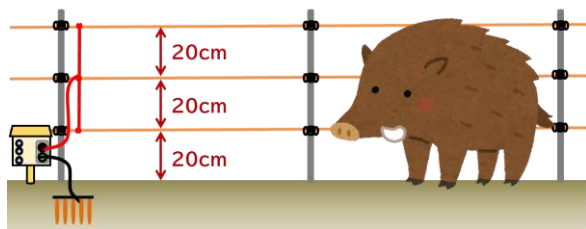
## シカ用電気柵



## イノシシ・シカ両用電気柵

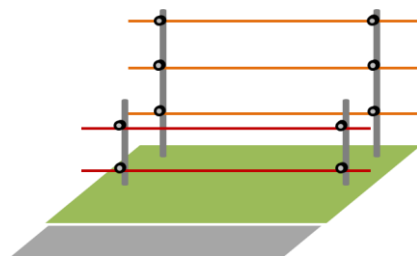


## イノシシ用電気柵

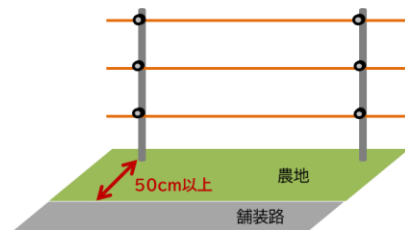


## 設置上の注意点

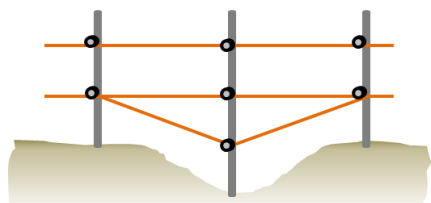
- ✓ 重要なところは2重張りにする



- ✓ 舗装道路沿いに設置する場合は、電気柵の支柱を舗装路面端から、50cm以上離す



- ✓ 凹地をまたいで設置する場合は、地面とのすき間を開けないように柵線を張る



## 電気柵の設置にあたって守るべき基準 (安全対策)

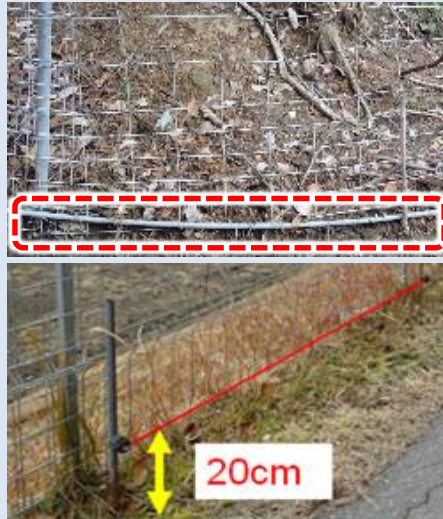
- ① 危険である旨の表示をすること  
子供にもわかりやすい表記で
- ② 出力電流が制限される電気柵用電源装置を使用すること  
家庭用電源から直接電気を供給しない !!
- ③ 漏電遮断器を設置すること  
(30ボルト以上の電源を用いる場合のみ)
- ④ 開閉器(スイッチ)を設置すること  
(電源装置本体に付属されており、容易に操作可能であれば追加設置は不要)

☑ 下部の強度を十分に確保する



### 柵設置時に注意すべきイノシシの特性

- くぐり抜けが得意で、地上から20cm程度の隙間であればくぐり抜け可能
- 鼻の力が非常に強く、70kg程度の障害物を鼻で持ち上げることができる。
- 裾の無いフェンスは下部の持ち上げや侵入に特に注意

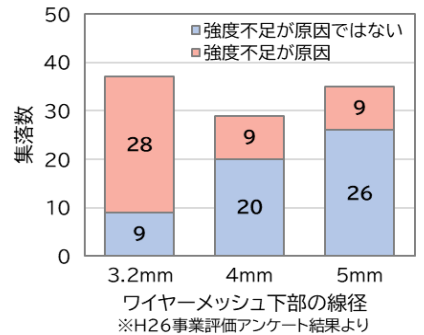


### 下部の持ち上げ侵入防止対策

- 直管パイプ、丸太、竹、杭などで地際を補強する
- 柵の外側に電気柵を設置する

☑ 線径は5.0mm以上

### イノシシ・シカ侵入の原因 (強度不足とワイヤーメッシュ線径)



### ワイヤーメッシュの線径3.2mmは強度不足

- 線径の細い柵は頻繁に破損し、補修に多大な労力を要している
- 推奨する線径は、5.0mm以上(少なくとも4.0mm)
- 線径3.2mmの柵でも、下部を補強することで改善は可能

☑ シカ用には高さは2m以上



### 傾斜地への設置は高さに注意

- フェンス自体の高さではなく、シカの踏切場所からの高さで考える

☑ 隙間なくキッチリ囲う



### 隙間を開けない

- 排水溝も侵入口となるので塞いでおきたい(大雨等には注意)

☑ メンテナンスを考慮して設置

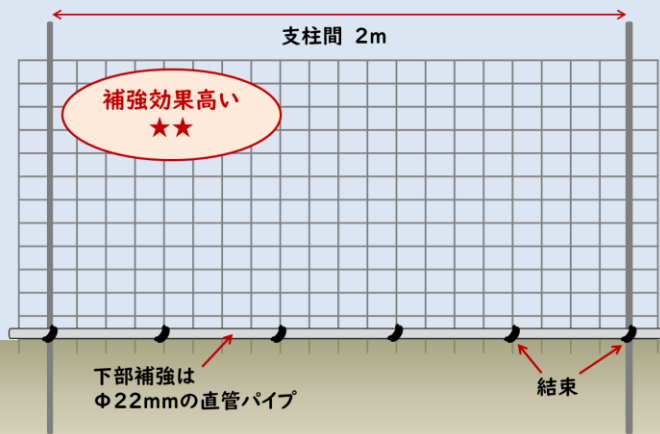


### メンテナンスを考慮して設置する

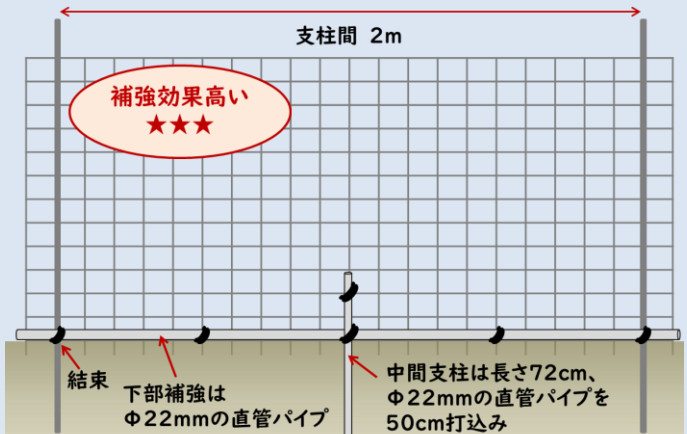
- 車が入れる場所なら設置もメンテナンスも効率的。なお、道路や河川敷への設置には占有許可が必要。

## 効果的な下部補強方法

支柱間 2m



支柱間 2m



- 支柱がグラついている場合には、中間支柱を土中の硬い支持層に到達するまで打込む等の対策を合わせて実施

# 柵を設置した後の基本

## 何よりもメンテナンス！

管理体制を整備して、見回りや雑草の管理、破損個所の補修を行いましょう



### 雑草管理

つる性植物がからまると強風時に柵が倒されやすい  
また、雑草で破損個所を見落としてしまう



### 倒木による柵の破損

山の中は目が届きにくい。  
定期的な巡回体制を



### 壊されたら補修

補修にはより強い資材を使う

## 柵管理の優良事例



### メンテナンスが可能な体制整備

支柱に付けた番号で、班ごとの管理範囲や破損個所の情報を共有



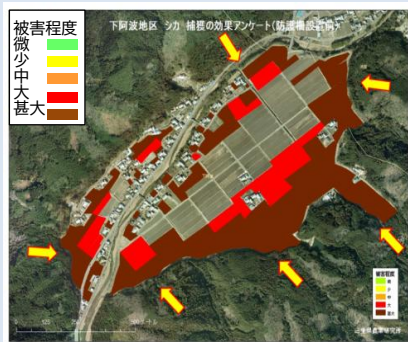
### メンテナンスのしやすい柵管理

柵の外側もきれいにしている

## 捕獲と組み合わせて相乗効果を

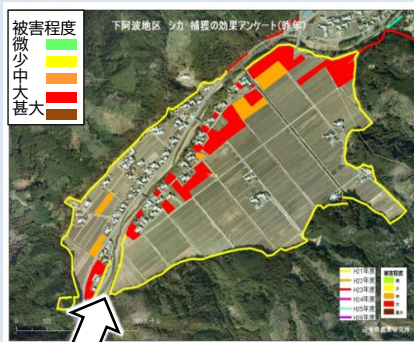
防護柵設置後も、囲えていない川からシカが侵入して被害がありましたが、侵入場所付近で継続的に捕獲を行ったことで、被害は大幅に減少しました。

### 防護柵設置前



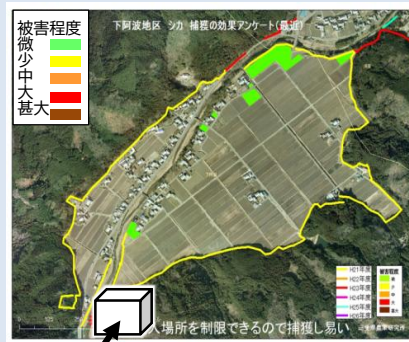
柵設置前は、周辺の山側で被害が甚大

### 防護柵設置後



柵で囲えない河川からシカが侵入し、川沿いに被害

### 防護柵設置+捕獲後



捕獲場所 開口部は侵入場所を制限できるので捕獲し易い

## まとめ

- 正しく設置すれば、防護柵の被害防止効果は高い
- 防ぎたい動物や管理体制に合わせて柵を選択
- メンテナンスが重要（柵を設置してからが対策のスタートと考える）
- 計画時から、「見回りのしやすさ」「修繕のしやすさ」を考慮し、設計に反映させる
- 防護柵設置+捕獲で相乗効果が期待できる

